特定非営利活動法人

ハート・オブ・ゴールド

活動報告集 2018

この法人は、被災地や紛争地及び開発途上国の子ども達、障がい者、貧困層の人々に対して実施するスポーツや教育、その他の活動が、人生にチャレンジするための「希望と勇気」を持てる機会を創ることを目的とする。

特に、苦境に立ち向かう人々が自分達の抱える問題を自らの力で解決していく自立へとつながることを目指し、彼らと共に人材育成に力を注いでいく。

2019 年 5 月 31 日発行

特定非営利活動法人　ハート・オブ・ゴールド

〒701-1213　岡山市北区西辛川 895-7-101

TEL/FAX:086-284-9700　Email:hginfo@hofg.org

https://www.hofg.org/　https://www.facebook.com/heartsofgold.japan

＊ 各頁の右肩に HG の活動と SDGs の関連性を示すマークを入れています。SDGsとは持続可能な開発目標の略称で、2015 年 9 月の国連サミットで採択された、国連加盟 193 ヶ国が 2016 年～2030 年の 15 年間で達成するために掲げた目標です。

2018 年度　事業報告書（案）

（期間：2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日）

特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド

（１）　特定非営利活動に係る事業

定款の事業分類	事業名	主な事業内容	実施場所	頁
国内外におけるスポーツ大会、イベントの運営協力事業	・アンコールワット国際ハーフマラソン(AWHM)後援 ・レクリエーション大会	・大会名誉会長である代表が、前夜祭、大会に参加し、スタディツアーの有志と共に大会を盛り上げた ・参加者は 10,500 人(78 ヶ国・地域から) ・チェイ小学校の子ども達とミニ運動会をして交流	カンボジア	2
	・スポーツエイド ・チャリティイベント	・チャリティマラソンやスポーツイベントの実施・運営協力 ・チャリティイベントの開催協力	日本	―
スポーツを通じた開発支援事業	・小学校体育科教育普及	・青年海外協力隊と連携し、地方での体育ワークショップ実施や HP での動画活用により、体育をさらに普及していく ・教育大臣を始めとしたキーパーソンへの働きかけを継続	カンボジア	―
	・スポーツ施設設置	・体育拠点小学校・中学校に施設及び用具を支援 ・設置済み浄水器のメンテナンス		
	・中学校体育科教育指導書作成・普及事業【JICA 草の根技術協力】	・指導書執筆ワークショップ ・指導書試行ワークショップ ・指導書案・導入モデル州ワークショップ(3 州) ・体育実施状況モデル州モニタリング(3 州)		3
	・NIPES4 年制大学化プロジェクト【外務省 NGO 連携無償資金協力】	・カリキュラム内容検討ワークショップ ・アドミッション・ポリシー等検討ワークショップ ・高校体育指導書作成支援本邦研修(9 名)		4
障がい者支援事業	・障がい者陸上競技振興	・障がい者ランナーや指導者のニーズに沿って、パラ陸上競技会開催や、選手・コーチの能力向上のためのワークショップやトレーニング支援を継続 ・アンコールワット国際ハーフマラソン参加への支援継続	カンボジア 日本	5
	・日本のマラソン大会への招聘	・障がい者ランナーをかすみがうらマラソンに招聘		
被災地・紛争地における自立・復興支援事業	・日本語教育	・チェイ小学校の日本語教室（初級） ・岡山学芸館高校に留学（8 月-翌年 7 月、1 名） ・BBU 大学の日本語講座（中・上級クラス）、日本語検定試験対策、少人数でのグループレッスンなどを実施	カンボジア	6
	・養護施設（NCCC）運営	・孤児や貧困児童を受入れ、里親制度により、養育を行う ・ローカルスタッフの人材育成 ・日本の学校との交流	カンボジア	7
	・子どもの健康増進・疾病予防	・日本人歯科医による歯科検診（チェイ小学校、12 月） ・むし歯予防のための歯磨き指導 ・設置済み浄水器のメンテナンス		
	・7.7 西日本豪雨	・財産保護活動（日本警察消防スポーツ連盟と協働） ・夏休みにおける避難所でのイベント	日本	8
国際理解・交流事業	・スタディツアー	・学生や団体のスタディツアー受入れ(18 回) ・国際協力の現場見学とボランティア体験や交流により、貧困・平和・開発について理解を深めることへの協力	カンボジア	9
	・サービスラーニング（学校教育）	・学校に講師派遣、スカイプや文通などで交流（12 回） ・国際協力の実践的学習の場を学校に提供	日本 カンボジア	
	・研修啓発・講演会・イベント参加	・HG についての講演・報告・広報活動		
	・インターン受入れ（国内外）	・インターンの受入れ（短・長期）（3 名）		
その他、当法人の目的を達成するために必要な事業	・調査/研修	・調査。シンポジウム、国際会議への参加 ・岡山県にて障がい者スポーツ指導のための研修（9-11 月）	日本 カンボジア	―
	・広報活動	・「HG 通信」を年 2 回発行 ・ホームページの更新及び活動資料の作成・整備 ・各地で開催されるイベント等に参加し、活動の広報を通して国内での支援者の拡大を図る		

（２）　その他の事業

定款の事業分類	事業名	事業内容	実施場所
バザーその他物品販売事業	・チャリティバザー ・グッズ販売 ・パネル展示	・グッズ販売で活動資金を集める ・各地で開催されるイベントで活動を広報し賛同者を拡大	日本

※福武哲彦教育賞（岡山の子ども達への教育に貢献したことを評価）と HEROs AWARD 2018（20 年に渡るスポーツを通じた開発支援を評価）を受賞

事業名	アンコールワット国際ハーフマラソン
事業分類	国内外におけるスポーツ大会、イベントの運営協力
協働団体	カンボジアオリンピック委員会（NOCC）、カンボジア陸上競技連盟（KAAF）、カンボジア観光省（MoT）、 カンボジア障がい者陸上連盟（CDAF）

活動概要

大会趣旨：**"Building a better future – Aids for children and disabled people in Cambodia"**

（カンボジアの障がい者と子ども達の未来のために）

・世界に向かって「非人道的な対人地雷の使用禁止」を訴える。

・大会からは、障がい者の社会復帰・自立支援、また、医療、子ども、貧困などの活動に寄付される。

・健常者と同様に、障がい者も、スポーツを楽しむことができ、共に走ることを通じて、勇気と希望を分かち合うことができる。

・カンボジアに対する世界各国からの支援に感謝し,元気なカンボジアを訴求する。

主　催：　カンボジア観光省、同オリンピック委員会、同陸上競技連盟

主　管：　カンボジア陸上競技連盟

運　営：　アンコールワット国際ハーフマラソン組織委員会・実行委員会(AMC)、Cambodia Events Organizer Co., Ltd.(CE)

後　援：　カンボジア政府、シェムリアップ州、観光省、文化・芸術省、教育・青年・スポーツ省、在カンボジア日本国大使館、**ハート・オブ・ゴールド(HG)**、在日本カンボジア大使館、 APSARA Authority、カンボジア赤十字、カンボジアトラスト、ハンディキャップ・インターナショナル、アンコール小児病院、ロイヤルアンコール国際病院、サンライズジャパンホスピタル、Sokha Siem Reap Resort & Convention

日　時：　12 月 2 日（日）　午前 6 時 00 分スタート

種　目：　ハーフマラソン(男女/車椅子男女),10km ロードレース（男女/義足男女/義手男女）,3km ファン・ラン（オープン）

コース：　アンコール遺跡周回特設コース

プレ・イベント：・コースチェック(12/1)：運営：CE　・前夜祭(12/1)：運営：観光省、CE

参加者：　10,500 人（78 ヵ国・地域から）

チャリティ：　本年度：US$115,400（ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ赤十字　$10,000、ｶﾝﾀﾞﾎﾞﾊﾟ小児病院 $5,000、ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ･ﾄﾗｽﾄ　$3,600、ﾊﾝﾃﾞｨｷｬｯﾌﾟ･ｲﾝﾀﾅｼｮﾅﾙ　$3,000、ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ障がい者陸連　$3,400、ｱﾝｺｰﾙ小児病院　$82,000、HG $8,400）

うち HG の内訳は、NCCC：US$2,000、障がい者支援：US$2,400、体育教育：US$2,000、自立支援：US$2,000

特記事項：

- 有森代表の 1996 年の第1回大会参加を機に、1998 年に有志とともに HG を設立し、大会の特別運営協力を 15 年間して行った。18 回大会(2013 年)にカンボジア側に広報、準備、資金調達、会計、運営など、全てを移譲し、19 回からは大会名誉会長として日本からのランナーを同行して参加している。
- 年々、参加者が増えているため、ランナーが安心・安全に走れるよう**危機管理体制の整備**をアンコールワット国際ハーフマラソン組織委員会・実行委員会に提言していく。
- 日本からは当会のスタディツアーとして約 30 名が 11 月 29 日からカンボジアを訪れ、前夜祭やマラソンを始め有森代表を囲んだ歓迎パーティ、当会が運営する養護施設（ニュー・チャイルド・ケア・センター：NCCC）訪問、歯科検診などの多彩なプログラムに参加した。特に、20 周年記念として 11 月 30 日にチェイ小学校ミニ運動会を開催し、NCCC の子ども 17 名、チェイ小学校の児童約 400 名と共に交流した。
- AWHM の 10km 義手男子 2 位 Vuth Sokkhav さんと義足女子 1 位 Sok Sreychean さんは、有森賞に選ばれ翌年 4 月 15 日開催の「かすみがうらマラソン」に招待された。

支援・協力団体

かすみがうらマラソン、奈良トヨタ自動車㈱、タイヨー薬局、日立建機㈱、兵庫県高校陸上競技部有志

事業名	カンボジア王国中学校体育科教育指導書作成支援・普及事業 【JICA 草の根技術協力事業】
事業分類	スポーツを通じた開発支援
支援対象	カンボジア王国　教育・青年・スポーツ省（MoEYS）、地方教育局（POE、DOE）、モデル中学校

活動理由

カンボジアでは 1970 年代の内戦で、施設、人材・教材等、教育システムが根底から破壊された。1991 年のパリ和平協定以降、教育インフラの再建は進められていたが、人間性の発達の根幹を担う情操教育にはほとんど着手されていなかった。なかでも国家の未来を担う子ども達の心身の健全な育成のために重要な役割を果たす体育科教育はほとんど行われておらず、簡易運動に留まっていた。当会は、まず小学校体育科教育の復興のため、2006 年から 11 年にわたり、教育・青年・スポーツ省、JICA、筑波大学との連携を図り、学習指導要領の新訂と指導書作成の支援、15 州の 13 教員養成校と 33 小学校（後に、認定小学校となった）への普及と、教育省の自立的普及のための人材育成等を行なった。

続いて 2015 年からは中学校体育科教育の支援を開始し、学習指導要領作成支援と人材育成のための事業を実施した。2016 年 12 月に学習指導要領が教育・青年・スポーツ省により認定され、体育の授業で、7 領域 20 種目を通して、「態度、知識、技能、協調性」を教えていくことが明記された。現在は、それに沿った指導書の作成支援と普及のためのワークショップやモニタリングを実施している。

引き続き、小・中学校の一貫した体育科教育の確立を目指して活動を行っていく計画である。

活動概要

1. 指導書作成ワークショップ（7 回）
   - 指導書を作成するにあたって、ドラフトを確認しながら、各領域・種目においての一貫性の確認。修正事項の確認。
   - うち 1 回は日本体育大学の岡出美則教授を講師として招聘。
2. 指導書導入ワークショップ
   （プノンペン都、バッタンバン州、スヴァイリエン州、各 1 回）
   - モデル州（プノンペン都 3 校、バッタンバン州 16 校、スヴァイリエン州 11 校）に対して、指導書ドラフトを紹介するワークショップ。
   - スヴァイリエン州のワークショップでは、筑波大学の三田部勇准教授を講師として招聘。
3. 指導書ドラフト試行ワークショップ
   （プノンペン都、スヴァイリエン州、バッタンバン州、各 1 回）
   - 作成中の指導書ドラフトを紹介して、教員達が理解できるか、また指導書を用いて、年間計画・単元計画・指導案を作成できるかを確認するためのワークショップ。
   - 昨年度同様、新しい体育に対する教員の理解度を確認するための質問票による調査を実施し、教員理解度を確認。
4. 指導書案確認・修正・イラスト調整作業
   - 教育省から提出された指導書案を翻訳し、内容確認。各領域間、種目間の一貫性を整理。更に、専門家に確認し、内容修正。
   - 指導書に挿入するイラストを日本の指導書を参考に依頼。日本の指導書にない
     ものは写真や他参考書を参考に依頼。
5. 青年海外協力隊との連携
   - 7 月 20 日にプノンペン市ボントラバエク中学校配属の井上大地隊員、水泳連盟配属の本田ふみの隊員と協力し、カンボジアで初めての水泳の授業を実施。
   - 国立体育・スポーツ研究所(以下 NIPES)配属の岡本光貴隊員と協力し、NIPES の体育教員養成カリキュラム内容を検討。

日体大岡出先生のワークショップ

指導書導入ワークショップ

水泳の授業の様子

次年度の実施計画

- 指導書作成ワークショップ（1 回）
- 指導書認定・印刷・配布
- 指導書試行ワークショップ（プノンペン市、バッタンバン州、スヴァイリエン州、各 1 回）
- 学習指導要領と指導書案の活用状況確認のモニタリング
  （プノンペン市、バッタンバン州、スヴァイリエン州、各 2 回）

支援・協力団体

篠山ABCマラソン大会、筑波大学、JICA、日本体育大学、HG 長岡クラブ、みしま西山連峰登山マラソン大会、淀川国際ハーフマラソン

事業名	カンボジア王国国立体育・スポーツ研究所(NIPES)体育科コース 4 年制大学化事業 【日本NGO連携無償資金協力事業】
事業分類	スポーツを通じた開発支援
支援団体	カンボジア王国　教育･青年･スポーツ省（MoEYS）、国立体育・スポーツ研究所(NIPES)

活動理由

当会は、小学校体育科教育の復興のため、2006 年から支援活動に着手し、更に 2015 年からは中学校体育科教育の支援を開始し、小・中学校の一貫した体育科教育の確立を目指して活動を行っている。

また、現在カンボジア教育・青年・スポーツ省（以下、教育省）は、教育改革を進めており、ASEAN 基準に合わせるため、すべての教員が学士（4 年制大学卒業）を取得できるよう、教員養成課程を 4 年制化しようとしている。一方、体育科については、国立体育・スポーツ研究所（以下、NIPES）において 2 年制課程で中学校・高等学校の体育教員を養成しており、4 年制にするためにはカリキュラム等のシステム構築、人材育成、施設整備等、多くの課題を抱えている。

よって本プロジェクトでは、10 年に亘りカンボジアの体育科教育の発展のために活動してきた当会の知見を活かし、先行している他教科の教員養成大学と一貫性のとれた 4 年制体育大学を設立することを目指す。

活動概要

1）　本事業は 12 月 27 日に在カンボジア日本国大使館において贈与契約署名式が行われ、2019 年 1 月 1 日より、以下の活動を実施している。

1. 第 1 回キックオフミーティング（1 月 11 日）
   - NIPES、教育総局下の教員養成局(TTD)、カリキュラム開発局(DCD)、政策・計画総局(DOP)、高等教育局(HED)を集め大学設立のための共通認識を図った。
2. 第 2 回キックオフミーティング（スポーツセクター）（1 月 21 日）
   - スポーツ総局下にある NIPES、学校体育・スポーツ局(DPESS)、体育・スポーツ局(DPES)、ナショナル・スポーツ・トレーニング・センター(NSTC)を集め、カンボジアで唯一の体育大学を設立するための NIPES の位置づけを確認。
3. NIPES 体育科コース 4 年制大学化への現状と課題の分析・説明するワークショップ（2 月 18-20 日）
   - NIPES の教員と職員が NIPES の現状と改題を理解し、体育科コース 4 年制大学化に向けたプログラムを検討するための基礎知識を獲得するためのワークショップを実施。
   - 筑波大学の山口　拓助教授を講師として招聘。
4. カリキュラム内容検討ワークショップ（2 月 26-27 日）
   - カリキュラムを作成するために必要な情報、知識を学び、グループワークを通じてカリキュラムフレームワーク案を作成。
5. アドミッション・ポリシー並びにキャリアパスウェイ検討ワークショップ（3 月 19-22 日）
   - NIPES の将来を踏まえて、NIPES 入学者に示すアドミッション・ポリシー案を作成するとともに、キャリアパスの意味とキャリアパス構築の手続きについて理解するワークショップを開催。
   - 日本体育大学の岡出美則教授を講師として招聘。
6. プール建設工事
   3 月 7 日、安全確保のためのフェンスの建設開始。現在、プール槽の底面及び側面の鉄筋コンクリート部分の工事が完了。
7. 青年海外協力隊との連携
   - 会議議事録作成や上記ワークショップの事前準備などを、NIPES 配属の岡本光貴隊員に協力してもらっている。

第 1 回キックオフミーティング開会式

筑波大山口先生のプレゼン

日体大岡出先生のプレゼン

カンボジアの伝統的起工式

次年度の実施計画

- 評価ポリシー、体育科コース運営ハンドブック、教員マッチアップ等のワークショップ等の開催
- 日本研修（5 月、11 月）、タイ研修（8 月）の実施
- アドミッション・ポリシー作成、カリキュラム修正、キャリアプラン作成、評価ポリシー作成、体育科運営ハンドブック作成、体育科コースの試験的運営・モニタリング・開講、事業評価
- プール建設、関連機材の設置。施設管理ワークショップ、施設運営マニュアルの作成、施設の譲渡

支援・協力団体

外務省、在カンボジア日本国大使館、筑波大学、日本体育大学、他

事業名	障がい者陸上支援事業
事業分類	障がい者支援
支援対象	カンボジア王国　教育･青年･スポーツ省(MoEYS)、カンボジアパラリンピック委員会（NPCC）、障がい者陸上連盟（CDAF）

活動理由

カンボジアでは、いまだに障がい者に対する差別があるため、社会に出ることが難しい。当会は、障がい者がスポーツを通し新たな人生を見出していくことを応援するために「アンコールワット国際ハーフマラソン（AWHM）」に障がい者ランナーが参加できる仕組みを作った。そして、AWHM で上位に入賞した障がい者ランナーを「かすみがうらマラソン」等に招待する等、障がい者がより多くのスポーツに参加できるように機会を提供してきた。

また、カンボジアのパラリンピック委員会や障がい者陸上連盟と共に、障がい者陸上のトレーニングを支援してきたが、選手のトレーニング方法や、コーチの指導方法に関しては、専門の指導者がいないという課題を抱えていた。そのための指導者を育成するとともに、選手がより効率的に練習できたり、これから陸上を始めようという障がい者に対して、陸上の面白さや楽しさを教え、障がいを克服する力が持てるようになることも、この事業の大きな目的である。

活動概要

1) **かすみがうらマラソン**に障がい者ランナー2 名を招へい(4 月 15 日)
2) **日常トレーニング**（9-11 月、毎土曜日）CDAF と協力し、障がい者ランナー約 30 名とスタッフが AWHM を目指して毎週のトレーニングに参加。
3) **障がい者シンポジウム**を開催（12 月 1 日、シェムリアップ）
   障がい者ランナー40 名、NPCC スタッフ 2 名、CDAF スタッフ 2 名が参加。
4) **車いす陸上トレーニングワークショップ**を開催（12 月 3-5 日）
   グロップサンセリテ WORLD-AC 所属の松永仁志選手兼監督（パラリンピック 3 大会連続日本代表）をカンボジアに招聘し実施。
   車いす陸上選手とコーチ、パラリンピック委員会（以下、NPCC）スタッフが参加した。選手は、フォーム確認、スタートの技術、練習方法、目標設定、栄養学、車椅子のメンテナンスを学び、コーチは、コーチングの技術について学んだ初めての講習会となった。
5) **障がい者陸上オープンクラス**を実施（情報交換の場として）
   - 第1回「コーチ向け･トレーニング計画作成について」（1 月 25 日）
     コーチ、陸上選手、NPCC スタッフが参加。
   - 第 2 回「カンポット州障がい者支援団体”Epic Arts Cambodia”訪問」（2 月 11-12 日）
     障がい者スポーツの啓発活動、競技会の広報のため実施。
     陸上選手、コーチ、NPCC スタッフが同行。団体参加者は約 30 名。
   - 第 3 回「選手向け･ランニングフォームの確認、目標設定」（2 月 22 日）
     陸上選手、コーチ、NPCC スタッフが参加。
6) **第 3 回カンボジアパラ陸上競技会**を開催（3 月 1-2 日）
   - パラ陸上選手（立位/車いす、男/女）が参加（競技参加者 68 名）。
   - パラ陸上選手でない障がい者が参加できるオープンレース（参加者 2 日間で 86 名）と障がい児のためのファンイベント（参加者 141 名）も行った。

マラソントレーニングの様子

障がい者シンポジウムの登壇者

車いす陸上トレーニングワークショップ

カンボジアパラ陸上競技会の様子

特記事項

JICA 青年海外協力隊短期派遣として、筑波大学大学院生が 1 名、社会人（陸上経験者）が 1 名、障がい者陸上支援のために派遣（12 月末-3 月）された。トレーニング計画の作成、生活面の注意点、走り方のフォームなど毎日彼らと共にトレーニングに参加、指導して大変成果をあげた。

次年度の実施計画

- パラ陸上競技会や障がい者陸上トレーニング等、ランナーやコーチのニーズを把握し、継続的な支援につなげていく
- 12 月のアンコールワット国際ハーフマラソン参加のための支援を継続
- より多くの障がい者がスポーツを楽しみ、健康で豊かな生活の一助となるよう障がい者スポーツ人口を広げる
- 子どもの障がい者もスポーツを楽しむことができるような機会を提供していく

支援･協力団体

Active People’s Microfinance、AWHM、サタパナ銀行、メコン大学、JICA、JOCV、㈱栄光スポーツ、かすみがうらマラソン、グロップサンセリテ World-AC、筑波大学、HG 飯田クラブ、HG スタディツアー、HG チャリティーゴルフコンペ、ヒロシマ MIKAN マラソン

事業名	日本語教育事業
事業分類	被災地・紛争地における自立・復興支援

活動理由

HG は発足以来、「アンコールワット国際ハーフマラソン」の開催のため、現地オリンピック委員会やカンボジア陸連、カンボジア教育省などと取り組む一方、現地の多くの人々より日本語教育支援の強い要請を受けた。カンボジアの 8 割を占める農民は非常に貧しく、そのため、子どもを手放さざるを得ない家庭が多くあった。子ども達が成長しても就職は困難を極めており、もし、日本語が話せたならば、ホテル、レストラン、ガイドと仕事が見つかる可能性は高く、それが日本語教育の希望が寄せられた理由であった。

活動概要

(1) チェイ小学校 HG 日本語教室

チェイ小学校内に 2000 年 9 月に開講し、2015 年の日本人教師の退職後は、同教室の卒業生であるチュート・スライノッチ他 3 名が中心となって継続している。低学年の子ども達が日本語の授業を受けている。日本や日本人に親しみを持ってもらうため言葉の勉強だけではなく、日本の伝統的な遊びや文化を紹介したり、子ども向けのアニメなども視聴したりと、工夫をこらした活動を行っている。

(2) BBU 大学(Build Bright University)日本語講座

シェムリアップ市内での青年達への日本語教育のために、BBU 大学外国語センターにおいて、2015 年に日本語講座を開講した。指導は日本人教師 2 人と、HG 日本語教室の卒業生であるカン・ナムオイとコル・ソティアラの 4 名である。授業は毎日 3 クラスが開講されている。日本語ガイドを目指す人やホテル、レストランなどの観光産業に従事する人達が多く学んでいる。日本人が好きで日本語を勉強する人や、現在は、日本の企業や日本に働きに行く目的で日本語を学習する人が多くなっている。日本での就労を成功させるには、日本語能力が重要であると考えている。

(3)MOMOTAROU 日本語学校

1 月より少数のグループレッスンで実力をつけ、4 級、3 級を目指し、日本に働きに行く希望者のために開講した。

*(1)(2)(3)ともに日本語教育は、高等教育という位置づけにより、助成金がなく、寄付が財源となっている。

*日本の学校から、文房具や教材の支援がある。

卒業生

HG日本語教室を卒業した生徒は、日本語ガイド、看護師、日本語教師、地元企業(レストラン、旅行会社等々)に勤務し、それぞれ自立の道を歩んでいる。

次年度の実施計画

チェイ小学校では、昨年同様、週日の午前中に初級クラスを 1 クラス継続し、語学だけでなく童謡や、アニメ視聴なども行い日本語や日本文化に関心を持てるよう工夫していく。日本の学校との交流も進めたい。

「MOMOTAROU 日本語学校」では初級クラスだけでなく、中・上級クラスや日本語検定試験対策講座、少人数でのグループレッスンなどを開講し、学生の幅広いニーズに応えていく。また日本への留学や、技能実習生として日本での修学・就業希望者に向けてよりサポートしていく。そして、現地では少ない中級以上を指導できる日本語教師の質を上げるよう進める。

なお、日本から現地で**日本語を教えるボランティアを募集**している。

支援・協力団体

一家明成、岡山外語学院、岡山市立平福小学校、同野谷小学校、他協力小学校、倉敷平成ライオンズクラブ、㈱研美社、個人支援者、トヨタカローラ奈良㈱、HG 飯田クラブ、HG チャリティーゴルフコンペ

事業名	養護施設運営事業： ニュー・チャイルド・ケア・センター
事業分類	被災地・紛争地における自立・復興支援

活動理由

孤児、あるいは孤児に準ずる子ども（両親や親戚が養育できない状態に陥った子ども）が安心して生活できる環境で養育を受け自立できるよう物心両面から支援し、良き市民としてカンボジアを担っていく人材を育成する。

場所：シェムリアップ州タックヴェル郡チェイ村

子どもの数： 16名 （2019年3月31日現在）

新洗濯干し場

NCCC子どもの状況

子ども達の日常生活は「笑い」があり、元気に毎日を過ごしている。そのような中、今年度はスライニット(高校2年生）が岡山学芸館高校に8月から1年間、留学をしている。また、スライニットとスライホムが日本語能力試験N4に合格した。このような年長者の努力の成果を目の当たりにすることができ、他の子ども達にも良い刺激となって少しずつ学校の成績も上がってきている。一人の社会人として自立生活ができるように、今後とも支援をしていきたい。今年度から子ども達の「里帰り」を、お正月（4月）と盂蘭盆（10月）の年2回とした。子ども達・保護者ともども、ひと時の肉親の愛情にひたることができ、大変喜んでくれた。今年度最後の3月31日（日）、クメール山に遠足に行き山頂にある大きな涅槃仏を詣で、その後、滝で水遊びを楽しんだ。

特筆すべきは、皆様のご寄付により、10年を迎える施設の全面改修工事（女子棟・男子棟・台所・トイレ・シャワールーム・水タンク・洗濯場等）が行えた。この改修により、子ども達の生活空間はより安全で衛生的な場所となり、ゆっくりと過ごせる生活の場となった。

教育

絵画教育

・日本語教育： チェイ小のHG日本語教室に、小学生が週5日（月−金）出席。中学生・高校生は週5日（日−木）ニュー・チャイルド・ケアセンター（NCCC）の日本語教室で学び、高校生2名は、4月から9月までシェムリアップ事務所で実施しているBBU日本語講座分室で大学生と共に日本語を学んできた。この高校生がN4合格を果たした2名である。このようにNCCCの子ども達の日本語能力は徐々にではあるが成果が表れている。

・アプサラダンス（クメール伝統舞踊）： カンボジアの伝統に触れるため、毎週日曜日の午前中に2時間習っており、センター訪問者に踊りを披露してきた。最近は子ども達が自主的に練習をしている。

・絵画教室： 昨年同様、月2回（土曜日午後）、「小さな美術スクール」（主宰者・笠原知子先生）で、絵画教室に通う。先生のご指導の下、子ども達のデザインによるTシャツを作成。

歯科検診と歯磨きの習慣

12月に、TAO（東洋医学研究会）の歯科医の先生方に、歯科検診と虫歯予防教育を実施していただいた。4年前から始まったこの活動により、子ども達には毎日の歯磨きの習慣がつき、虫歯が減ってきている。

畑での野菜の収穫

今年も、スタッフのタイリーが中心となって雨季に畑作を行い、少ないながらも野菜が収穫できた（空芯菜、インゲンなど）。子ども達は畑仕事を手伝うことで農作業の大変さや収穫の喜びを学んでいる。

日本との交流

8 月の岡山学芸館高校（SGH 指定校）の来訪を始まりとして、9 月には神戸学院大学、ノートルダム清心女子大学、名桜大学、島根大学、11 月は四天王寺大学の学生および 623 塾・山根氏他が来訪。さらに 12 月に入ると HG スタディツアー、学芸館高校・清秀中学の生徒、1 月は岡山市第三藤田小学校とのスカイプ会議等、多くの交流があった。子ども達は、日本との交流を通して、日本への理解が深まり、徐々にではあるが「受ける」感謝の気持ちと同時に、日本に行きたい気持ちが強くなっている。

次年度の実施計画

引き続き子ども達の主体性を尊重し、子ども達各自が現実に即した将来設計を考える力を養いたいと考え、社会科見学などを取り入れていく。その結果、これまで漠然としていた夢が、「病気の人を助けいたいからお医者さん」「教えることが好きだから先生」「料理を作るのが好きだからコックさん」等、具体的な目標に変化してきている。

支援・協力団体

㈱翌檜、アニモの会、アリモリカップマラソン、岡山学芸館 SGH・清秀中学校、岡山せとうちライオンズクラブ、岡山市立第三藤田小学校、同曽根小学校、きずなの会有志一同、協力小・中・高・大学、高野山真言宗南真会、HG スタディツアー、大光電機㈱、TAO（東洋医学研究会）、ハート・ペアレント、（株)パンネーションズ・コンサルティング・グループ

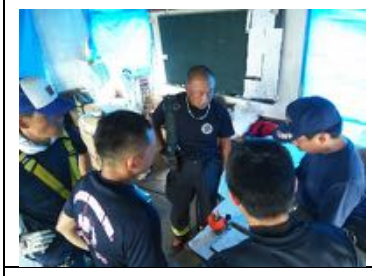
事業名	7.7 西日本豪雨支援事業（財産保護活動）
事業分類	被災地・紛争地における自立・復興支援
支援対象	倉敷市真備町被災者、総社市被災者（岡山県）

活動理由

7 月 7 日に起こった西日本を中心とした集中豪雨により、多くの地域で河川の氾濫や浸水害、土砂災害が発生した。これにより、死者、負傷者、行方不明者が 100 名を超え、多くの建物が浸水。様々な財産や大切な物が汚泥、汚水に浸かってしまい、なるべく早く掘り出し洗浄する必要があった。倒壊家屋やガレキの中に入るような作業は一般の方では難しいことも多く、また行政により立ち入り禁止となった場所では家主であっても入ることはできないため、特別な資格を持つ人達が活動する必要があった。

活動概要

財産の掘り起こし作業（財産保護活動）を日本警察・消防スポーツ連盟(警察、消防の現職ボランティア)と HG が協働で行った。「財産保護活動」は、7 月 11 日から 10 月 15 日まで、計 39 件を実施。具体的には、総社市下原地区でアルミ工場爆発に伴う爆風の被害により破壊された家屋から農機具の取り出し、穴の空いた屋根や壊れた窓ガラスへのブルーシート張り工法、台風対策。真備町では主に、汚泥に埋もれてしまった財産、貴重品の掘り出し、そして浸水した家屋の躯体保護作業と、時間の経過と共に目まぐるしく変化するニーズに猛暑の中全力で対応した。



支援・協力団体

日本警察・消防スポーツ連盟（JPFSF）、みんなでつくる財団おかやま（ももたろう基金）

事業名	7.7 西日本豪雨支援事業（夏休みにおける避難所でのイベント）
事業分類	被災地・紛争地における自立・復興支援
支援対象	倉敷市真備町被災者、総社市被災者（岡山県）

活動理由

被災によって保護者と過ごす時間がなく、また、自分の家に住めなくなったため、不安でストレスを抱えた子ども達が、避難所に数多くいた。そのような子ども達に少しでも楽しい時間を過ごしてもらえるよう、また、被災された方々を元気づけるため実施した。

活動概要

8 月 15 日と 16 日の 2 日間にわたり、真備町の避難所 3 ヶ所（倉敷市立薗小学校、同岡田小学校、同二万小学校）と総社市の下原地区と昭和公民館を訪問。被災された子ども達や大人も加わり、スイカ割りやかき氷をして楽しんでいただいた。

活動の展開

総社市を訪問した際、総社市長を表敬訪問した。そこから、9 月 14 日に「チャリティーリレーマラソン in そうじゃ」開催へとつながり、大会参加費や HG オリジナルグッズ販売の収益金の一部を、総社市の復興のために使っていただいた。12 月 22 日 HG の活動に賛同いただいた㈱栄光スポーツ、NPO 救命おかやまと共に、西日本豪雨復興応援を目的としたチャリティーイベント「有森裕子さんと AED を一緒に学ぼう」を開催。参加費の一部を被災地支援に使用させていただく。そして翌年 2 月 24 日に開催された「そうじゃ吉備路マラソン」への有森代表と HG の参加が決定した。HG は、「そうじゃ吉備路マラソン」が復興支援チャリティマラソンとして開催されることに賛同し、この大会が盛会となるように協力参加した。

支援・協力団体

㈱栄光スポーツ、NPO 救命おかやま、おもちゃ王国、神宮スタジアムナイトヨガ事務局、HG 福島クラブ、日本警察・消防スポーツ連盟（JPFSF）

事業名	サービスラーニング（SDGs,ESD=持続可能な開発のための教育）事業
事業分類	国際理解・交流事業
支援対象	日本国内（小・中・高校・大学） ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ（BBU 日本語講座、New Child Care Center （NCCC）、ﾁｪｲ小 HG 日本語教室、体育科認定校）

活動概要

学校が取り組んでいる総合的な学習や、国際理解教育、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ教育などに協力する。
子ども達が、世界の現状（貧困・環境・平和など）に目を向け、ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙな視点から、国際理解（異文化理解）を深めると共に、自分理解の助けとなるような活動とする。学習方法は、講演（ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ来訪者、ｽﾀｯﾌ他）IT 機器による交流・活動（ﾒｰﾙやｽｶｲﾌﾟなどを利用）、ﾋﾞﾃﾞｵ、文通、現地を訪問するなど、様々な手段を利用。そして交流・実践の中で、異文化理解、多様性の共存や持続可能な開発などについて考え、自らの生活を見直し、自分達の可能性と力に目覚め、進んで社会のために活動できるｸﾞﾛｰﾊﾞﾙな人材を育成する。

「スポーツを通じた SDGsへの取組」の発表

１） 出前授業

年間 12 回の出前授業等を実施。代表、HG 本部ｽﾀｯﾌ、東南ｱｼﾞｱ事務所ｽﾀｯﾌ、日本語教師、留学生など実際に活動している人から話を聞くことにより、現地を理解し、自分達にもできる活動について考え、実践できた（第三藤田小、野谷小、平福小、曽根小、岡山清秀中学校、岡山学芸館高校、玉野商業高校、他）。

２） 交流

手紙やﾌﾟﾚｾﾞﾝﾄの交換を通して異文化理解を深めた。また第三藤田小学校は日本の教室とﾌﾟﾉﾝﾍﾟﾝ事務所や NCCC をｽｶｲﾌﾟで結んで、質問し、歌や体育実技等を披露し合った。子ども達にとっては、国際協力の現場の話を直接聞け、お互い顔が見え、声が聞こえ、話し合える貴重な機会になった。

第三藤田小とのスカイプ交流

３） 派遣・研修受入れ

ｶﾝﾎﾞｼﾞｱへの受入れ：日本の中・高・大学・団体から、ｽﾀﾃﾞｨﾂｱｰ、ｲﾝﾀｰﾝの受入れ（18 団体）をし、研修・交流をした。
ｶﾝﾎﾞｼﾞｱから受入れ：教育省 7 名が日本体育大学で高校指導書作成のため研修。

大学生との交流

４） 設備・物資支援（日本の学校からの寄付金はまとめて施設や教材の支援に活用）

ﾁｪｲ小学校ﾐﾆ運動会や、体育教育研究指定校、NCCC などに必要な物資を、日本の協力学校や団体が集め、ﾂｱｰで持ち込み、必要な所に配付。
募金は、体育用具支援とし現地と話し合い、鉄棒（11 基）、ﾏｯﾄ（16 枚）、ﾎｲｯｽﾙ（50 個）、ﾎﾞｰﾙ（37 個）を必要とされるｶﾝﾎﾞｼﾞｱの小学校に贈呈・設置した。
支援物資は、T ｼｬﾂ, 教材, 文房具, 歯ﾌﾞﾗｼ, ｶﾚﾝﾀﾞｰ, 石鹸, 衣類, ﾀｵﾙ, 遊具, 生活用品などを持込み、小学校や施設他に配付した。

NCCC の子ども達からの手紙

５） 現地受入れ（18 回）

高校生･大学生、NGO などのｽﾀﾃﾞｨﾂｱｰや個人を、ｶﾝﾎﾞｼﾞｱの活動現場（NCCC、運動会、BBU、小学校等）に受入れ、国際協力活動や交流を実施。現地での実体験は日本の学生にとって大きな刺激となり、ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ人材育成に寄与した。

成果 （SDGs を学ぶ）

年間を通じて途上国に関わることで、貧困、環境、食料、人権、平和などがつながりあった関係である事を知る。また、自分達のおかれた地域に目を向け持続可能な社会を協力して作ることの大切さを理解。自分達が支援した募金・物資などが、現地に渡され喜ばれ活用されたことを知ることで、活動の意味を見つけた。
相手の立場に立って考えられる冷静さと、継続する大切さなどを確認。友人や家族と共に活動して自分の身のまわりから変えていくことで社会を変えていく喜びを感じ、教育現場の先生方からも HG が協力することで、子ども達にｸﾞﾛｰﾊﾞﾙな視点から、異文化理解・国際協力が広がることができたと評価された。

次年度の活動計画

現地ｽﾀｯﾌやｶﾝﾎﾞｼﾞｱ人などができる範囲で学校訪問をして、直接顔の見える交流の機会を増やす。学校が取り組む「SDGs /持続可能な開発のための目標」に協力し、実践を通して子ども達が地球規模で未来を考え、社会性を育てたり、日本の青少年をｲﾝﾀｰﾝやﾎﾞﾗﾝﾃｨｱとして現場に受入れ、体験を通しての成長を育みたい。

支援･協力団体

岡山市立第三藤田小学校、同平福小学校、同曽根小学校、同野谷小学校、倉敷市立連島東小学校、岡山清秀中学校、岡山学芸館高校、就実中・高校、順天中・高校、筑波大学、日本体育大学、㈱ｲﾅﾀﾞ、個人支援者、親子ﾁｬﾘﾃｨｰﾏﾗｿﾝ in おもちゃ王国、淀川国際ﾊｰﾌﾏﾗｿﾝ、岡山ｼｰｶﾞﾙｽﾞ、ﾌｧｼﾞｱｰﾉ岡山、HG ｽﾀﾃﾞｨﾂｱｰ、他

2019 年度 事業計画書（案）

（期間：2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日）

特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド

（１） 特定非営利活動に係る事業

定款の事業分類	事業名	主な事業内容	実施場所
国内外におけるスポーツ大会、イベントの運営協力事業	‣アンコールワット国際ハーフマラソン(AWHM)後援	・スタディツアーを企画し、参加者に AWHM を始めとした活動現場の紹介	カンボジア
	‣スポーツエイド ‣チャリティイベント	・チャリティマラソンやスポーツイベントの実施・協力 ・チャリティイベントの開催協力	日本
スポーツを通じた開発支援事業	‣小学校体育科教育普及	・教育大臣を始めとしたキーパーソンへの働きかけを継続	カンボジア
	‣スポーツ施設設置	・体育拠点小学校・中学校に施設を支援 ・設置済み浄水器のメンテナンス	
	‣中学校体育科教育指導書作成・普及事業【JICA 草の根技術協力】	・指導書執筆ワークショップ ・指導書案・導入モデル州ワークショップ ・体育実施状況モデル州モニタリング ・指導書印刷、配布 ・指導書を用いたワークショップ	
	‣NIPES 4 年制大学化プロジェクト【外務省 NGO 連携無償資金協力】	・カリキュラム内容検討ワークショップ ・アドミッション・ポリシー等検討ワークショップ ・体育本邦研修 ・プール建設、譲渡	
障がい者支援事業	‣障がい者陸上競技振興	・障がい者陸上競技会開催や選手・コーチの能力向上のための支援継続 ・アンコールワット国際ハーフマラソン参加への支援継続	カンボジア（プノンペン）
	‣日本のマラソン大会への招聘	・障がい者ランナーをかすみがうらマラソン等に招聘	日本
被災地・紛争地における自立・復興支援事業	‣日本語教育	・チェイ小学校の日本語教室（初級）継続 ・日本語学校開校：青年のための日本語講座（中・上級クラス・日本語検定試験対策講座など日本で働きたい人を対象） ・岡山学芸館高校に 1 年間の留学予定（8 月-7 月）	カンボジア（シェムリアップ）
	‣養護施設（NCCC）運営	・孤児や貧困児童を受入れ養育(里親制度) ・福祉省登録 ・ローカルスタッフの人材育成 ・日本の学校との交流継続	
	‣子どもの健康増進・疾病予防	・歯科検診（日本人歯科医による検診継続） ・むし歯予防のための歯磨き指導 ・健康手帳（仮称）の作成	
	‣国内被災地	・被災地の復興支援	宮城県、岡山県
国際理解・交流事業	‣スタディツアー	・国際協力の現場見学とボランティア体験や交流により貧困・平和・開発等の理解を深め、SDGs について考える ・学生や団体のスタディツアー受入れ	カンボジア
	‣サービスラーニング（学校教育）	・学校や団体に講師を派遣（持続可能な開発目標を知る） ・国際協力の実践的学習の場を学校に提供 ・スカイプや文通、メールによる現場との交流の機会提供	日本 カンボジア
	‣研修・啓発・講演会	・国際協力パネル展、講演会、シンポジウム開催	
	‣インターン受入れ（国内外）	・インターンの受入れ（短・長期）	
その他、当法人の目的を達成するために必要な事業	‣調査/研修	・調査実施 ・シンポジウム、国際会議への参加 ・岡山県ローカルトゥローカル事業にて日本語教育指導のための研修実施(9-11 月、1 名)	日本 カンボジア
	‣広報活動	・「HG 通信」を年 2 回発行 ・ホームページの更新及び活動資料の作成・整備 ・20 周年記念ブックレット作成	

（２） その他の事業

定款の事業分類	事業名	事業内容	実施場所
バザーその他物品販売事業	‣チャリティバザー ‣グッズ販売 ‣パネル展示	・グッズ販売で活動資金を集める ・各地で開催されるイベントで活動を広報し賛同者を拡大	日本

2018年度(平成30年度)活 動 計 算 書

［自　2018年(平成30年)4月1日　至　2019年(平成31年)3月31日］

特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド　　（単位:円）

科　　目	特定非営利活動に係る事業	その他の事業	合　計
Ⅰ経常収益			
正会員受取会費	2,643,000		**2,643,000**
受取寄付金	33,676,993		**33,676,993**
みなし寄付金	201,243		**201,243**
受取補助金	11,119,065		**11,119,065**
業務受託金	9,735,960		**9,735,960**
商品売上高		2,198,100	**2,198,100**
雑収益	3,883,397		**3,883,397**
受取利息	111,464		**111,464**
受取手数料	5,600		**5,600**
経常収益計	**61,376,722**	**2,198,100**	**63,574,822**
Ⅱ経常費用			
1　事業費			
国内外におけるｽﾎﾟｰﾂ大会･ｲﾍﾞﾝﾄの運営協力事業	5,523,771		**5,523,771**
ｽﾎﾟｰﾂを通じた開発支援事業	26,708,167		**26,708,167**
障がい支援事業	3,392,797		**3,392,797**
被災地・紛争地における自立、復興支援事業	12,313,808		**12,313,808**
国際理解・交流事業	1,328,882		**1,328,882**
その他	3,318,687		**3,318,687**
商品売上原価		1,362,640	**1,362,640**
事業費計	**52,586,112**	**1,362,640**	**53,948,752**
2　管理費			
管理費経費	15,304,394	634,217	**15,938,611**
管理費計	**15,304,394**	**634,217**	**15,938,611**
経常費用計	**67,890,506**	**1,996,857**	**69,887,363**
当期経常増減額	**△ 6,513,784**	**201,243**	**△ 6,312,541**
Ⅲ経常外収益			
為替差益	1,873,484		**1,873,484**
経常外収益計	**1,873,484**		**1,873,484**
Ⅳ経常外費用			
みなし寄付金		201,243	**201,243**
経常外費用計	**0**	**201,243**	**201,243**
税引前当期正味財産増加額	**△ 4,640,300**		**△ 4,640,300**
法人税、住民税及び事業税		71,000	**71,000**
当期正味財産増加額	**△ 4,640,300**	**△ 71,000**	**△ 4,711,300**
前期繰越正味財産額			**98,852,711**
次期繰越正味財産額			**94,141,411**

＊みなし寄付金は認定NPO法人による税法上の優遇措置の処理を行っている。
＊その他の事業は営利事業なので別紙損益計算書を添付